

IAUD Newsletter vol.5 第16号 (2013年1月号) 目次

1. 新春特集：岡本議長に聞く 2012年の振り返りと今年の抱負・・・ 1
2. IAUD アワード 2012 受賞紹介③：非常時配慮デザイン部門金賞受賞
「いつもの便利×もしもの備え」パナソニック㈱・・・ 4

UD活動は常に変化する要求にどう対応するかが肝心 新春特集：岡本一雄議長に聞く 2012年の振り返りと今年の抱負



明けましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

「第4回国際UD会議 2012in 福岡」を終え、無事に2013年を迎えました。今年で設立10年目となるIAUDは現在、法人化の準備を進めており、IAUDの活動も新たな局面を迎えています。

今年最初のNewsletterは、国際UD会議をはじめとする昨年の活動を振り返り、また今後のIAUDの方向性を探るため、岡本一雄IAUD評議員会議長に、小島文代理事長と西村澄夫副理事長/情報交流センター所長、川原久美子事務局長がお話を伺いました。

IAUDを手作りの会に

西村：2012年を振り返り、感想などございましたらお願いします。

岡本：昨年は特に大変な年でした。総裁の薨去、会長の逝去、4年から2年ごとの開催にした初めての国際会議と、今まで経験したことの無いことばかりが立て続けにおこり、かなり困難な事柄が続いたにも関わらず、皆が一致団結してよく乗り越えられたと、感慨ひとしおです。この努力を持ってすれば、今後もどのような困難なことが起ころうとも、何事も乗り越えられるだろうと確信しています。

総裁からは常に、「手作りの会にしてください」と言われていました。今までは、手作りとはどういうことなのか一番良くご存知の方（総裁）が、私たちの傘になっていただいていた、私たちはその傘の陰に隠れていれば良かった。でも、もうその傘はなくなってしまったわけです。

これからは、自分たちが前面にたって、手作りとはどういうことなのかを考えながら、対応していかななくてはなりません。その覚悟が必要で、是非ともやり遂げなければなりません。

社会的意義もあった国際会議

小島：昨年10月に開催されました「第4回国際UD会議 2012in 福岡」に関して、ご意見やコメントをお願いします。

岡本：大都市だけではなく、地方都市で行うことの意義はあると思います。それは地域振興であったり、地域活性であったり、それなりの意義を感じていますが、反面、集客の課題やその地域ならではの特性、慣習をどう克服するかとの課題の両面を考慮する必要があります。今回はそれを痛切に感じました。特に今回は、防衛省、自衛隊の協力には多大の効果、意義があったと思います。東日本大震災で活躍した護衛艦や炊き出し部隊を、西日本の方々に見ていただけたことは本当によかった。それを実現できたことはすばらしい成果で、社会的な意義もあったと感じています。



第4回国際UD会議 2012in 福岡 閉会式の岡本議長

集客は今回も困難だったと感じました。招待パスを発行したりと、事務局はかなりの努力をしたと聞いていますが、やはり地方での開催には難しい問題が多いですね。次回の課題でしょうが、極端に小さな会場で開催する方が、盛況感が出て、印象としては成功と映るのではないのでしょうか。とにかく、会場が満席で盛況感があるように、次回は必ず解決して欲しい課題です。企画がすばらしかっただけに、尚更残念でした。

すばらしい日本の技術を披露



小島：展示会場についてはどうでしたか。特に、造幣局と印刷局のブースに関してのご感想はありませんか。私としてはとても関心深かったのですが。

岡本：展示会場はくまなく見ましたが、どれもすばらしく、内容のひとつひとつがとても良かった。特に花王(株)の生活用品のUDに関する展示では、今更ながらですが、こういうUDもあるのかと、しばらく見入ってしまいました

造幣局と印刷局のブースに関しては、本来なら（裏方として）活躍されている方々にスポットを当てて展示されているところがすばらしかった。偽造されることを考えると、公表したくない部分もあったでしょう。しかし、他国の通貨の製造を請け負いたいという事情があるのであれば、すばらしい日本国独自の技術も披露したいという欲求もあるでしょう。そういう事情の狭間で展示を見せていただけたことは、これも国際会議併設での展示会場ならではの事だと思えます。

硬貨の光の変化は見ましたか。斜めに傾けると光り方が変わるあの技術。日本の技術は

本当に素晴らしいと実感しましたし、そういうストーリーが面白いと思います。いい企画でした。

継続していくことが大切

西村：国際会議中に初めて実施した「UD 検定」についてのご感想、ご意見を伺いたいのですが。

岡本：歴史が重さを作ると強調したい。一旦、始めたことはやめてはいけない。継続していくことに意義がある。それを考えても、検定事業を始めたことがすごい。そして、続けていくことがもっと大切です。いろいろな更新の仕方があるかとは思いますが、何につけても始められたことが、それだけで成果と言えるでしょう。感慨深いです。



UD アワード 2012 受賞式

西村：「UD アワード」についてのご意見はいかがでしょう。

岡本：これも大成功でしたね。粒ぞろいの応募作品だったと聞いています。数は多くなくても内容が濃かったと。UD 検定と同じで、継続していくことが大切です。「継続は力なり」これにつきます。国際会議の展示会場内の「IAUD アワード 2012」コーナーも隅々迄見ましたが、飽きませんでした。

西村：アワードのアーカイブスについてご要望があると伺いましたが、詳しくお聞かせください。

岡本：何年か経って、過去の受賞作品のことは、どこを検索しても分からないなんてことにはならないようにしてほしい。どんな内容の作品が、誰によって作り出されたのかが、いつでも検索できる。将来、誰が、いつ、どんな時代背景で、どんな作品が生まれ、どのように、誰によって評価されたのかが、誰にでも検索できるようなそういうシステムを作り上げてもらいたい。それが願いです。それが歴史を作っていくことだと思っています。

新たに進化した活動を期待

小島：今年の抱負および今後のあり方についても、お聞かせ願います。

岡本：今年は（国際会議が無いので）、日常の活動も大切です。地に着いた活動を地道に積み上げて、国際会議の場で胸をはって発表できるような、新たに進化した、マンネリを感じさせないような内容の活動を期待します。

研究部会活動は、いい活動になってきたというのが率直な感想です。今迄は、骨格ができてきたという感じでしたが、それに確実に筋肉がついてきた。今迄の枠から飛び出し

て更なる飛躍した活動になり、着実に継続していくことを期待しています。

常に勉強しながら作り上げていく UD

小島：IAUDは2013年11月で設立満10年になります。本来必要な活動を設立当初のメンバーである第1世代から第2世代へ、また第3世代にどう伝達していくのかお聞かせ願います。

岡本：カーナビの制作過程に例えて言えば、自分が通いなれた道路は通らないようにしています。問題点が先入観としてあるので、客観的な見方ができない。問題点を自分で勝手に作り出してしまい、正確な地図ができないことになります。

同じ意味で、UDも専門家の意見を先に聞いてしまうと、専門家の枠に縛られ素人のピュアな視点をもとにした活動ができなくなります。UDは常に自分たちで勉強しながら作り上げていくところに、新たな発見があり、思いもかけない商品が生まれてくる。素人だからこそできることがある、それがUDです。

また、UD活動は、常にバージョンアップが必要です。時代とともに常に要求が変わるので、それにどう対応するかが肝心。ナビに頼り過ぎると、地図をどう読み取るか考えなくなり、そのうちに地図を読めなくなる。読み込もうとしなくなる。結局は目的地にたどり着けなくなる。UDの活動に似ています。

小島・西村：本日はありがとうございました。(了)



日常的に使っている商品を非常時にも活用

IAUD アワード 2012 受賞紹介③

非常時配慮デザイン部門金賞受賞：

「いつもの便利×もしもの備え」パナソニック株

「IAUD アワード 2012」受賞紹介の3回目は、非常時配慮デザイン部門金賞を受賞したパナソニック株式会社様による「いつもの便利×もしもの備え」です。

審査委員長のロジャー・コールマン英国王立芸術大学院名誉教授は、「東日本大震災で明らかになった課題に対し、会社が確立したUD政策を推進する指針を適用し、非常時における用途も備えた一連の日常使用の製品をデザインした。これは環境ならびに社会的持続可能性の洗練された協働作用である」と評価しています。

この取り組みを、パナソニック株式会社デザインカンパニーイノベーショングループUDチーム チームリーダーの中尾洋子様にご紹介していただきます。

《1》東日本大震災後、災害への備えをする人が増加

2011年の東日本大震災を境に、生活者の安心・安全に対する意識が高まり、災害への備えをする人が増加しています。

2011年4月に当社が調査したデータでは、「常備灯や懐中電灯を用意している」と答えた人が65%から83%に増加、「乾電池や充電機を用意する」と答えた人も79%と高い数字を示しています。また「震災後購入したいもの」については、「普段の生活でも使えて非常

時にも役立つ製品」が求められていることがわかりました。（表1-1、表1-2）
 普段の暮らしの中で便利に使いつつ、地震等の突発的災害時にもすぐに使える商品が求められています。

表1-1. 震災前と震災後、それぞれどのような備えをしていますか

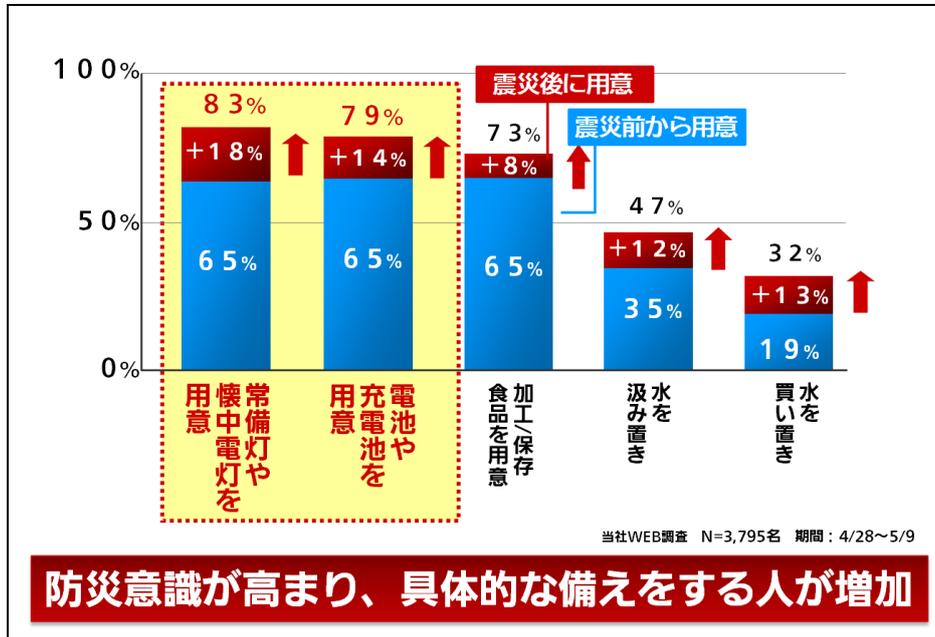
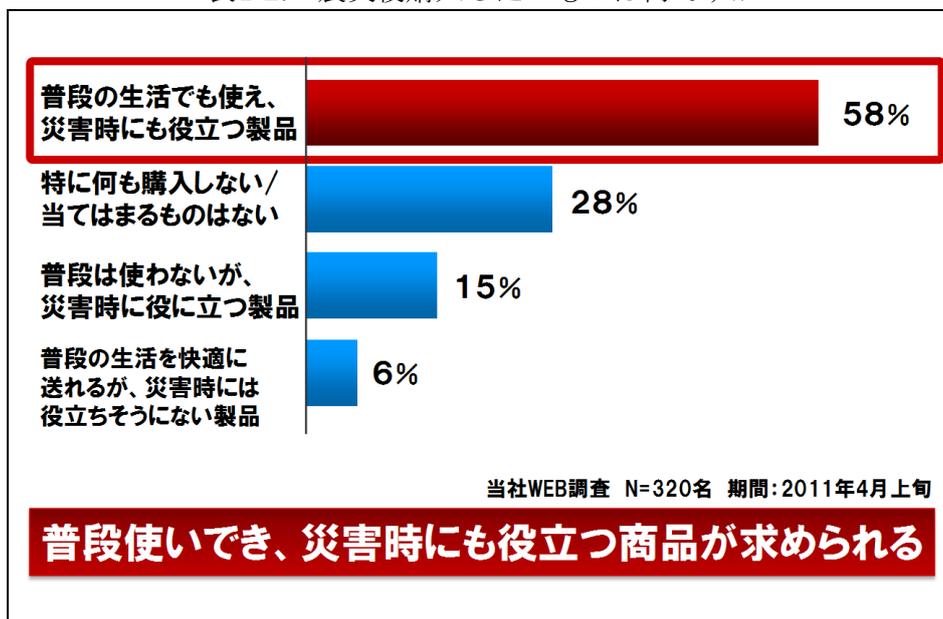


表1-2. 震災後購入したいものは何ですか



《2》 「いつもの便利×もしもの備え」コンセプト

防災用品をいざという時に使おうとすると、収納している場所を忘れていたり、電池が切れて使用できなくなっていることがあります。

そこで、日常的に使っている商品を非常時にも活用する事で、常に最適の状態ですべて災害に備える商品群を「いつもの便利×もしもの備え」シリーズとして提案することにいたしました。これは、充電式電池による製品のロングライフ化やソーラー電源の利用など、

環境に配慮した商品を身近な生活の中で使用することでエコ意識を高めて頂ける、新しいライフスタイル提案でもあります。

《3》 「いつもの便利×もしもの備え」製品それぞれの工夫

■ [コンパクトソーラーライト] BG-BL01G

いつもはアウトドアに持ち出すLEDライトとして、もしものときは太陽エネルギーで携帯電話や充電式電池に充電できます。(図1)

- ① 昼間にソーラー充電し、夜間にLEDポータブルライトとして使用できます
- ② ソーラー充電で、充電式電池単3×2本に充電できます(当社エボルタ使用時)
- ③ USB電源出力端子付きで多様な用途に対応できます



図1. コンパクトソーラーライト

■ [無接点インテリアライト] BG-KL01H

いつもはやさしい光のインテリアライトとして、もしものときは傾けると自動で光る懐中電灯として使用できます。(図2)

- ① インテリアライトとサーチライトの2通りに使えます
- ② 停電時は自動でインテリアライトが点灯します
- ③ 無接点充電方式により、置くだけで簡単に充電できます



図2. 無接点インテリアライト

■ [充電式ランタン] BG-BL02H

いつもは手軽に持ち運べるアウトドアランタンとして、もしものときは20時間光り続ける非常用ランタンとして使用できます。(図3)

- ① 強・弱の明るさが切替えられ、約20時間連続して点灯できます
- ② 「持つ」「置く」「吊るす」など、多様な用途に展開できます
- ③ 充電式なのでくり返し使えて経済的です



図3. 充電式ランタン

■ [充電式ポータブルワンセグテレビ] SV-ME870

いつもは無線LAN内蔵で「YouTube」などの動画を楽しめるお風呂テレビとして、もしものときはバッテリー駆動の確かな情報源として使用できます。(図4)

- ① お風呂でもワンセグ放送が楽しめる防水タイプです
- ② 無線LAN内蔵で「YouTube」やインターネットラジオも楽しめます
- ③ お部屋ジャンプリンクで、好きな番組を高画質で鑑賞できます



図4. 充電式ポータブルワンセグテレビ

■ [ポータブル電源] CB-LS01H

いつもはたっぷり電気を貯めてアウトドア用の電源として、もしものときはテレビやPCを動かす非常用電源として使用できます。（図5）

- ① AC100V・USBの出力が可能です
- ② 停電時は簡易ライトとアラームで、ポータブル電源本体がどこにあるのか、その所在をお知らせします
- ③ IPX5（水の噴射を直接浴びても機器本体に有害な影響がないことを表す等級）相当なので、屋外での使用にも安心して使用できます



図5. ポータブル電源

《4》 アフリカにおける社会文化活動

充電式ランタンは、アフリカの無電化地域で先行して寄贈、販売をしていた商品です。図6に示すように、子供が小学校に充電式ランタンを持って登校、授業中に学校にあるソーラーパネルで充電式ランタンに充電します。放課後に充電済みのランタンを持ち帰り、夜に家族で集う明かりとして使用されています。



図6. アフリカの無電化地域で先行展開

無電化地域での生活力向上に大活躍していた充電式ランタンは、充電部分を変更し、被災地である南三陸町の約8割の世帯に寄贈、役立てていただくことができました。（図7）



図7. 南三陸町仮設住宅に設置されたソーラーランタン

《5》 前年約3倍の販売達成

「いつもの便利×もしもの備え」シリーズ発売後のお客様の声を紹介します。コンパクトソーラーライトには、「コンパクトなデザインで非常に良い。倉庫でも便利に使えそうだ」「コンセプトが非常に良い。持ち運び易いサイズで十分な照度を確保できている」などの声をいただきました。また、無接点インテリアライトには、「明かりが2段階あり、長時間使いたい時、明るく使いたい時に使い分けできるのは良い」「ポイントは、無接点であること。部屋に飾れるデザインで、そのまま懐中電灯になるのだからかと便利だと思う」などの声をいただき、サイズ感や使い勝手、コンセプトに至るまで非常に高い評価をいただくことができました。さらに、実販についても、コンパクトソーラーライト：40万台、ネックライト：37万台と、ハンディライト製品群として前年比約3倍を超える実績となりました。（図8）

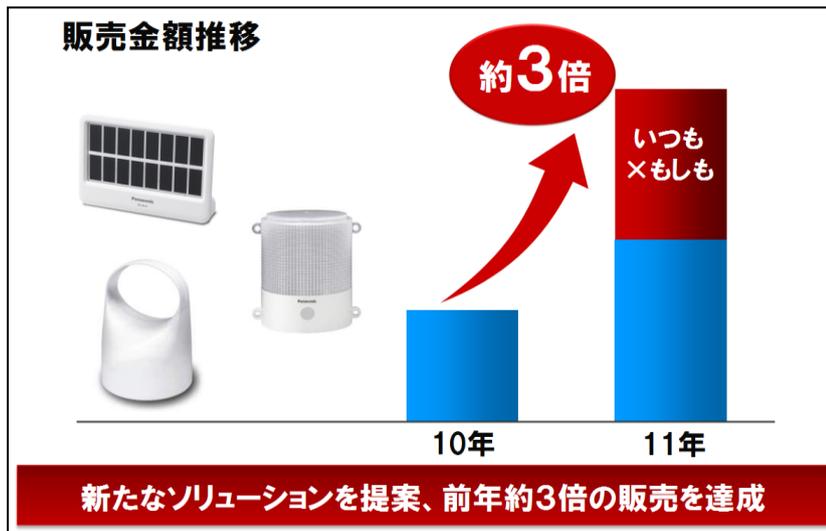


図8. 販売金額推移

「いつもの便利×もしもの備え」シリーズについては、今後も時代のニーズに合致した製品を継続的に展開して参りたいと考えております。（了）

※「IAUD アワード 2012」に関しては以下のサイトもご覧ください↓
<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1212/14-100000.php>

次号は1月下旬発行予定
特集：第1回定例セミナー開催報告（予定）
無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net